

令和 7 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2025 年 1 月 6 日

学 長 殿

所属部局・職名

(所属・学年) 地域デザイン科学研究科 1 年, 2 年

申請者名

(学会発表助成の場合は参加者名)

三浦 奈々(M2), 窪 詩絵(M1)

<p>助成の区分 (該当するものに○)</p>	<p>○学会発表助成○ 学術出版助成・学術論文発表助成</p>
<p>研究活動名</p>	<p>窃盗更生支援プログラムに関する有用性の検証</p>
<p>成果の概要</p>	<p>2016 年から福島保護観察所・福島刑務所・福島大学が協定を結び、報告者らが主導して開発した「窃盗更生支援プログラム」が本格施行されている。この 10 年間に集積されたデータに基づいて、本報告では、プログラムの有用性について、心理尺度による対象者全体の量的分析を行った。さらに、臨床現場からのニーズに基づいて実践されてきたプログラムにおいて、矯正施設と更生保護との機能的連携のエビデンスを示す大学の役割を検証し、実践研究の臨床的意義と課題を再確認したい。</p> <p>なお、本研究は学会誌「更生保護学研究」に投稿予定である。</p> <p>添付書類：学会の大会プログラム；発表概要</p>

5 自由報告〔第3報告会場〕

12月7日 9:30～12:00 34号館 A304 教室

司会進行：長谷川洋昭（田園調布学園大学子ども教育学部教授）

渡邊 敦子（武蔵野大学教授）

第3—①報告

報告者氏名 ○長谷川 洋昭、○長谷川 言葉（田園調布学園大学 BBS 会前会長）

報告テーマ 薬物依存回復訓練における BBS の取り組み

報告概要

田園調布学園大学 BBS 会は 2011 年 9 月に設立され、現在約 30 名で活動している。以前は横浜保護観察所及び地元の保護司会から 1 号観察の「ともだち活動」も実施していたが、世界的なコロナ禍の時期を経て中断し今に至っている。学生たちから保護観察対象者の方と直接関わる機会がないかと顧問に相談したところ、顧問が東京保護観察所立川支部から 2023 年 7 月から委託を受けている「薬物依存回復訓練」への同席を認められた。「まだ何者でもない若者」である BBS 学生が薬物依存回復訓練の場で意識している取り組み内容と、想定される参加者への効果を整理する。

第3—②報告

報告者氏名 ○三浦 奈々（福島大学大学院地域デザイン科学研究科）、窪 詩絵（福島大学大学院地域デザイン科学研究科）、生島浩（福島大学特任教授）

報告テーマ 窃盗更生支援プログラムに関する有用性の検証

報告概要

2016 年から福島保護観察所・福島刑務所・福島大学が協定を結び、報告者らが主導して開発した「窃盗更生支援プログラム」が本格施行されている。この 10 年間に集積されたデータに基づいて、本報告では、プログラムの有用性について、心理尺度による対象者全体の量的分析を行った。さらに、臨床現場からのニーズに基づいて実践されてきたプログラムにおいて、矯正施設と更生保護との機能的連携のエビデンスを示す大学の役割を検証し、実践研究の臨床的意義と課題を再確認したい。

第3—③報告

報告者氏名 ○渡邊 敦子、井ノ口 恵子（アパクリニック看護師・精神看護専門看護師）

報告テーマ 更生保護施設における薬物事犯者に対する支援の実態と課題 —薬物専門職員を対象としたグループインタビューからの考察—

報告概要